

### 3. [その他の課題について]

木次町会場（チェリヴァホール）

Q20：雲南市に引っ越してきて3年になる。雲南市は出雲神話の時代からの歴史を強く感じる。山があり、川があり、そして鳥のさえずりと、非常に自然豊かで、それに加えて人の良さを感じる。また夏祭りやとんどさんなどの風習が残っており、冠婚葬祭も含め近所での協力や心遣い、心の温かい絆の強いところを感じる。また悪い面では、官尊民卑、お上という意識が強くあるのかなと感じる。行政は市民に対するサービス産業というのが世間の常識だが、残念ながら当市では市民参加という奇麗事で市民が行政の仕事を肩代わりして行政にサービスしていると感じる。選挙のときだけ奇麗事を聞くが、その後は市民の声を聞く態度が感じられない。これもお上意識の現れかなと思う。自然はどこにでもあるものではなくここにしかない貴重な財産だと思う。是非この財産をいろんな形で活用してほしい。例として斐伊川は昔はただで遊べたが、川で釣りをするにも金を払う状況。きれいな水辺で遊べる川になってほしい。人口減少は活性化に対する不満のためもある。企業誘致やUIターン支援をもう少し強力にやってほしい。若い者が帰ってこない家ではなぜ帰ってこないのかを家族で話し合ってみてほしい。この地域は住みやすいところなので行政は認識を新たにされ活性化策を実行してもらい、雲南市が寂れることなく発展することを強く望んでいる。

A：ご意見はしかと受け止めさせていただく。向こう三軒両隣が助け合う地域づくりが求められている。そうした意識を市民に共有してもらいがんばってもらっている。行政は市民の皆さんにサービスを提供するサービス産業だというのはそのとおりだが、行政は市民の皆さんにサービスをして、市民の皆さんは行政からサービスを受けるだけかいうとそうではなく、市民の皆さんがやるべきことがあるとすればそれをやっていただいて、市民と行政の協働のまちづくりが相互理解のもと進められれば、そういう関係が構築できればそれに越したことはない。そのために地域自主組織を作って、それを拠点にして自分たちでできることは自分たちでやっというこことして現在に至っている。そうした市民の皆さんの組織である地域自主組織を中心としたまちづくりのやり方が全国的に結構認められつつあり、他の自治体でもそうした動きが増えてきている。去年の11月から「雲南ゼミ」というものを開設させていただいた。雲南市と同じようなやり方をしている団体が全国で増えている。雲南市のまちづくり方式を指導いただいている川北秀人先生の関わりで「雲南ゼミ」が去年の11月から行われて、今年5月にはプラチナ構想ネットワークシンポジウムが開催され、そのときは全国から23団体、44人の方が来られて情報交換をした。様々な地域づくり方式を学んで、これからも地域の皆さんにご理解いただきながら頑張っていこうと考えている。様々なご意見をいただいたが、地域の皆さんが、愛着、自身、誇りをもっていただくことが一番大事なことであるし、そのことが浸透すると、次男、三男にも帰って来いと言える街になると思う。いただいたご意見はしっかり受け止めながら今後のまちづくりに生かしたい。（市長）

Q21：山林の荒廃対策として地元日登の山地放牧場が整備された。当初は期待していたが、頭数も増えず、管理も難しく、思うようになっていないのが現状。地元が管理委託を受けてやっているが、今後の運営のありかたについて考えはあるか。山林の荒廃対策ということもある。間伐材チップの話もあったが、他地区への拡大についても聞きたい。

A：当放牧場については、山木を切って牛を放して、山地放牧するもので、木次町時代から計画し、合併後に完成したもの。地元の皆様方にもご理解ご協力をいただいて完成した。ただ畜産を巡る状況は非常に厳しく、飼養農家数・頭数とも減ってきており、全国的にも畜産については厳しい状況が続いている。島根県は子牛の価格も全国的にも高くなく、経営的に成り立たないということもあり、縮小傾向にある状況。山地放牧自体は自然を利用したコスト削減を目指したやり方であり、牛の値段が低くてもコストを下げて収益に繋げていくという思いの事業であり今後も続けていきたい。今は農家に放牧してもらえない状況で地元にはご心配をかけている。これまで和牛と木次乳業のブラウンスイスも入れているが、今後も活用できる形を地元の皆さんと相談しながら農家に使ってもらえる方策を取っていきたい。担当者による説明も随時行っていきたい。（産業振興部）

長)

Q 2 2 : J Aが斐伊支店と三刀屋支店を統合し、平成26年2月にJ Aの新支店が下熊谷にできるということだが、組合員の利便性をはかるために市民バスの路線変更の考えがないか聞きたい。

A : J Aより市の方に話をいただいている。現在市民バスが2路線走っており、新しい支店ができたら最寄りの場所に停車するよう調整中であり、利便性のある運行を考えている。(政策企画部長)

Q 2 3 : 3年前に実施された災害時要援護者支援制度は非常に良いことだと思う。その後もそういう制度をやっておられるのか。地域の皆さんとしっかりと連携を取ることが必要であると思う。

A : 災害時要援護者支援制度は災害時に弱者の方を対象に避難できるようにと作った制度だが、いろいろ問題も出てきている。現在は希望者の手上げ方式でやっているが実際には地域の方から見ると「その方よりもっと助けが必要な方がいる」という意見もある。そういう本当に支援が必要な方を地域の中で把握し、もしものときは地域が中心となって避難すべき、という意見がある。現在地域自主組織の皆さんとの円卓会議でこのことについて協議を進めており、今後制度の形が変わるかもしれないが、それまでは現在の形でやっていく。より実態に合うようなものに変えていけるよう協議中である。(健康福祉部長)

A : いつ何が起こるか分からないご時世であり、各地域において訓練など継続的な取り組みが必要。地域自主組織単位でやってもらうのが理想だが、そうは言っても自分の自治会にどういう人がいるのかわからない、個人情報保護で知ることができないという問題がある。伊賀市の例では、自主組織の会長に家族構成表を封筒に入れて封をして渡し1年間置いておき、万一のときには会長がそれを開けて役員が避難誘導する。何もなければ1年後開けずに家族へ返し、家庭内に変化がなければまた同じ物を渡す、ということをしておられる。こうした取り組みは訓練を重ねるなかで知恵と工夫から浮かんできたということ。1回やったからそれで終わりではない。訓練を通じて制度を直していかないといけないと思っている。もしそういった取り組みをやりたいということであれば相談いただきたい。(市長)

Q 2 4 : 合併して8年経過した。他町はわからないが、木次町では合併して良かったと思う人が少ないような気がする。今日も参加者が少ないのは、市長にお任せということの表れではないかと思う。そこで市長にお尋ねするが、雲南市の目立つ、誇れるヒット商品だというものをも3つ挙げてもらいたい。市民の方に聞くと、町全体が疲弊して寂しいとか、私の周りの自治会など向こう3件皆空き家だと言われる、そうした状況の中でどうしたらよいかと思っている。昭和53年に三刀屋高校が甲子園に出場したときに、今とは状況も違うかもしれないが、街が活性化した。そういうヒット商品があるのか、お聞かせ願いたい。もしあれば、そういうことをアピールしていただきたい。

現市庁舎の跡地について憂慮している。今のところどういう方針なのか。機関車についても修復中のようだが、もし撤去されていたら木次町民は怒り狂うところだと思う。木次の発展には鉄道あり。

水道料金を上げるのはやめてほしい。川下の松江や出雲がもっと安いのに、水を供給しているはずの川上が高いのはおかしい。

A : ヒット商品とのご質問、なかなか「あれが良かった」という立場ではないが、雲南市がスタートしたときから5つのまちづくり施策を掲げてきた。市民と行政の協働のまちづくり、安心安全のまちづくり、健康長寿を全うできるまちづくり、そして教育振興、産業振興、財政健全化。今はこれらをアレンジしているが、今日は3つの課題と7つの施策を申しあげた。合併して何が良かったかという点について言えば、6つの町は合併しなければ完全に財政が成り立っていなかった。合併して財政非常事態宣言は出したが、23年度に解除でき、自治体の健全化の指標として赤字比率や連結赤字比率もなく、特別会計も含めて全て黒字である。実質公債費比率も16.5%とかなり低い。将来負担比率も107%くらいで、基金も約100億円あり健全財政が

確保されている。もちろん新庁舎・病院建設もあり、また今後何が起こるかわからないので、それに備えて基金を積んでいる。自治体が潰れずに済んだことが一番に挙げられることである。2つめは市民の皆さんと行政の協働によるまちづくりだが、これは地域自主組織にがんばってもらっている。インフラ整備については、木次町は合併前に極めて限られたタイトな財政の中まちづくり計画を立ててやり終えた。ソフト面については、安心安全な暮らし、健康長寿・生涯現役のため身体教育医学研究所うんなんを建てた。市の医療費の値上がりによってストップをかけるために身体教育医学研究所が中心になってやっている。また雲南市立病院が24年度に17年ぶりに黒字転換した。管理が事務組合から市立になって自治体と病院が意思疎通を図ることによって、一致団結して取り組んできたことと、あらゆる病院関係者が力を合わせたからこそできた。頭が下がる思いである。産業振興の面では地産地消に取り組み、スイーツ・スパイス等のプロジェクトも育ちつつある。出雲や松江のような派手なものはないが、リトル松江やリトル出雲になるよりも、他にはない歴史・人・自然・食を生かした雲南市ならではのまちづくりができています。あとはしっかりアナウンスしなければならない。今後どう評価されるかはもうちょっと経ってみないとわからないが、雲南市がいま厳然として存在していることが合併効果であるということをご理解とさせていただきたい。なお子育て支援についても、県内他市町村と比べて、決して劣るものではないと考えている。(市長)

A：庁舎跡地については、議会でも指摘いただいております、八日市地区でも検討会議を作っておられ、私どももこちらにも参加させていただいた経過もあります。庁舎が28年4月に移転する計画であるので、それまでのところで跡地利用についてお示しできるように現在庁内で検討しています。八日市地区をはじめ木次地区の皆さんと相談をさせていただきたい。(総務部長)

A：水道料金の値上げについて、水道事業の費用は基本的に水道料金でまかなっているが、人口減少や節水意識の向上、節水機器の利用増等により水道使用量が減少し、水道料金は減少傾向にある。一方水道施設は計画的に施設の更新が必要であったり未給水地域の改修へ向けての設備を進めており収益は減っても経費が増加し、自然と赤字となっている。水道料金でまかなえないところは市の補助金を使ってやっている状況である。今月の市報うんなん1ページ目に水道料金についてのお断いを記載しているが、基本料金を平均4.3%、8t以上の料金を5円引き上げる予定としている。県内の状況だが、一般家庭の平均を口径13ミリ・月使用料20tとして他市と比較すると県内19市町村の中では中くらい、高いほうから11番目で、県の平均より低く、8市の中では3番目に高い。中山間地域はどうしても設備投資に多額の費用がかかり、このままでは健全経営が困難な見込みであるため、市民の皆様にご負担のご協力をいただくようお願いしたい。(水道局長)

A：庁舎跡地について、図書館や勤労青少年ホームがありまだまだ十分使えるので、周辺をリニューアルして活用したい。体育館についても老朽化しており建て替えが早晚必要となる。地元八日市でも跡地検討の会を立ち上げられ、熱心に協議いただいている。建物も老朽化し、あれをそのまま使うことはできないので何らかの形を考えていく。庁舎が逃げてしまうと人数的には寂しくはなるが何らかの機能を持った物は必要と考える。合併で良いことがなかったということだが、アンケートによると加茂と掛合がその意見が多く、木次は良かったという意見が多かった。(副市長)

A：このアンケートは総合計画策定のために7月に行った。その中に合併についてどう思うかを問う質問があり、木次町では「とても良かった」「まあまあ」というご断いを40%の方からいただいている。対象者は各町の年齢構成に併せて無作為に1000人を抽出し送付した。断り率は38.5%と低いが、統計としては有効な数。木次の場合は4割の方が合併して良かったということで、これは6町のなかで一番多い割合となっているし、逆に「良くなかった」は17.2%、少ないほうから2番目。なお残りの43%が「どちらとも言えない」という断りであった。(政策企画部長)